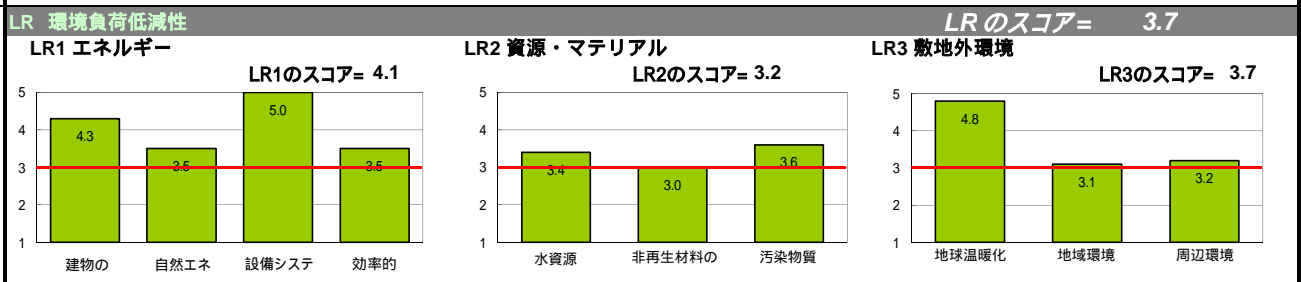
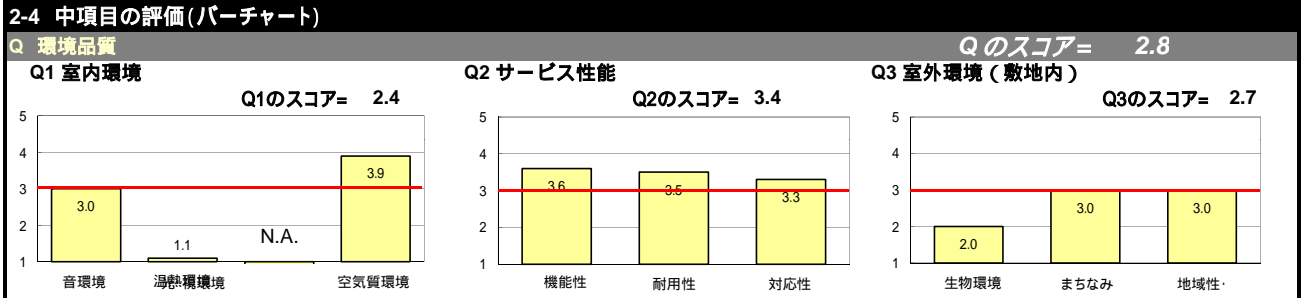
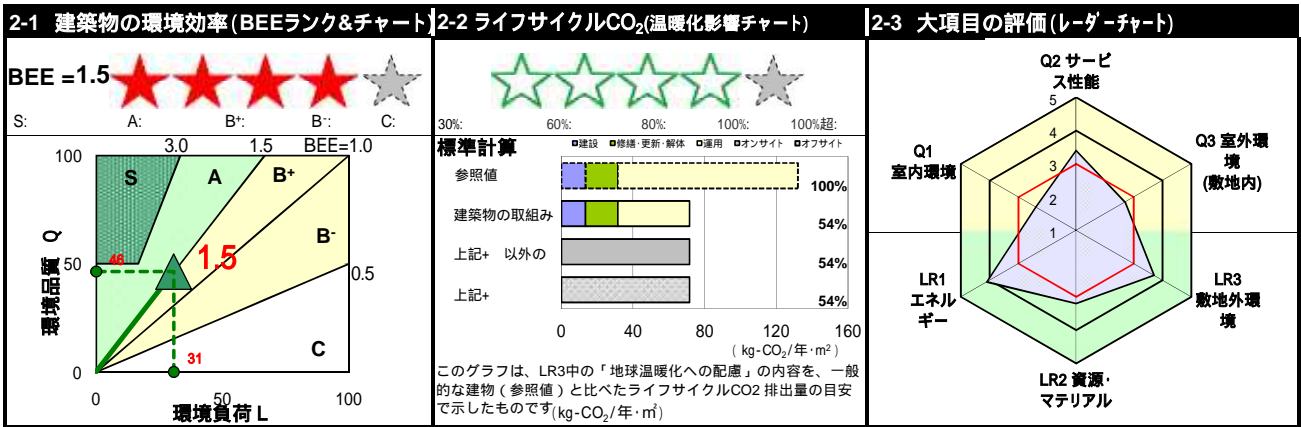


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	神奈川工科大学 新体育館計画	階数	地上3F
建設地	厚木市下荻野字中四ツ谷1030番地	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	250 人
気候区分		年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年3月 予定	評価の実施日	2013年1月29日
敷地面積	4700(仮想敷地) m ²	作成者	(株)三菱地所設計
建築面積	3,395 m ²	確認日	2013年1月30日
延床面積	5,459 m ²	確認者	(株)三菱地所設計



3 設計上の配慮事項

総合	その他
<ul style="list-style-type: none"> 温度差換気を利用した自然換気を基本とし、省エネルギーを図ります。 安定した地中熱を利用したクールチューブにより、空調コストを軽減します。 	太陽光発電に将来対応予定。
Q1 室内環境 施設内の快適性を確保するため、音環境(サッシ遮音性能)、空気環境(F 建材、喫煙不可)の向上に努めている。	Q2 サービス性能 施設のサービス性能向上のため、機能性(コンセプトのある内装計画)、耐震性(建築基準法の1.25倍)、将来の更新性(仕上材・設備配管などの建資材の耐久性、設備や空間のプランニングの自由度)に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内) 建物の外装色は大学キャンパス内の建物と合わせ白を基調とした。また、構内の施設のためグラウンドや講義棟などからの景観性について考慮し、ボリュームを小さく分割することで、圧迫感を抑えた計画としている。	LR1 エネルギー エネルギー量の低減のため、自然エネルギーの有効活用(天窓設置による自然採光・通風)に配慮している。
LR2 資源・マテリアル 省資源への貢献として、水資源(節水型衛生設備)、建材再利用性(解体時の資材分別容易性)、汚染物質回避(ノリ/断熱材)に配慮している。	LR3 敷地外環境 敷地外環境への負荷軽減のため、十分な断熱性能や高効率機器の積極的な採用によるLCCO ₂ 排出量削減、光害の抑制に配慮している。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される